

現地体験プログラム

本プログラムは、釜石東中学校・鵜住居小学校の児童生徒が当時避難した避難路を歩いたり、当時校舎があった場所である釜石鵜住居復興スタジアムを見学しながら、当時の出来事を肌で感じられる内容となっています。震災当時の様子をより詳しく知りたい、実際の場所を見てみたいという方におすすめのプログラムです。

また、本プログラムには「いのちをつなぐ未来館」の館内ガイドも含まれています。

1時間半コース（①～③から1つ選択）と2時間半コース（①～③から2つ選択）の2種類をご用意していますので、興味のあるプログラムをぜひ体験ください。

① 避難路追体験

鵜住居地区で多くの方が亡くなった一方で、小中学生のほとんどが助かった経緯から、児童生徒の避難行動は賞賛されるまでに至りました。しかし、当日の避難の実態としては、さまざまな困難に直面しつつも、それを乗り越えて、なんとか生還できたと言った方が適切かもしれません。

本プログラムでは、その舞台となった釜石東中学校と鵜住居小学校があった場所（現釜石鵜住居復興スタジアム）から、高台へと避難した道を歩きながら、当日の出来事や教訓、防災教育についてお伝えします。



鵜住居地区

釜石市北部の海に面した住宅街。鵜住居地区の死者・行方不明者は釜石全体の6割を占めました。



避難路

児童生徒はおおよそ40～50分間、いくつかの場所を経由しつつ、約1.6kmの道のりを避難し続けました。

② 釜石鵜住居復興スタジアム見学

「釜石鵜住居復興スタジアム」は釜石市の復興の象徴と言える存在です。本プログラムでは、震災や建設までのエピソードをお話することに加えて、ロッカールームなど施設内部の見学ができます。釜石市はラグビーの町と呼ばれ、ラグビーが盛んな町です。同スタジアムは、2019年開催のラグビーワールドカップ日本大会にて東北で唯一の試合会場となりました。

展示室では、釜石にゆかりのあるラグビー選手に加え、過去にお越しいただいた著名人のサイン等もご覧いただけます。

※本プログラムでは、グラウンドには立ち入りいただけません。
※お客様都合によるキャンセルがあった場合は、キャンセル料が発生いたします。



③水門・防潮堤見学

岩手県では、震災からの復旧・復興に向け、水門や防潮堤といった津波防災施設の整備を行いました。地域の安全を担う津波防災施設について理解を深めていただくことが、地域の防災力向上に向けた重要なポイントです。施設について理解を深めていただくことで、今後の災害に対してどのように備えることができるか考えるきっかけとしていただければと思います。

※岩手県沿岸広域振興局土木部が対応出来ない場合は、いのちをつなぐ未来館スタッフの対応となるため、操作室内は見学いただけません。



操作室の見学
普段見ることが出来ない操作室内にて設備についての説明をいたします。

詳しい料金・申込方法に関しては、ホームページに掲載の「申込要項」および「申込書」をご参照ください。

お問い合わせ先：いのちをつなぐ未来館 TEL：0193-27-5666 FAX：0193-27-5667
E-mail： tomosu@dmo-kamaishi.com URL： <http://unosumai-tomosu.jp/>